

# 市報 きよせ

No.1274 毎月1日・15日発行

平成30年 (2018年) 10月15日号

発行：清瀬市 編集：企画部秘書広報課  
〒204-8511 清瀬市中里五丁目842  
☎042-492-5111 (代表) ☎042-492-2415  
メール：kouhou@city.kiyose.lg.jp  
URL：http://www.city.kiyose.lg.jp/

市ホームページは  
こちら



今号の主な内容▶2面：第47回清瀬市民文化祭／3面：市内一斉清掃にご協力ください／4・5面：特集「平成29年度 一般会計決算の状況をお知らせします」

## 第十回 石田波郷俳句大会



中央公園にある波郷句碑



昭和23年6月、清瀬村(当時)の国立東京療養所にて

清瀬にゆかりの深い俳人・石田波郷の名前を冠に頂いた俳句大会は、記念すべき第10回目を迎えます。今年も、全国・市内の皆さんからたくさんの作品のご応募をいただきました。ありがとうございました。

当日は、「波郷門の人々」と題し、NHK「俳句」でもお馴染みの岸本尚毅氏(新人賞選考委員・「天為」「秀」同人)による講演会を開催します。また、石田波郷の直筆原稿や年譜・句集、昭和20年代の清瀬の写真など、波郷ゆかりの品々やジュニアの部の入選句などを展示します。どちらの会場にも、ぜひご来場ください。

☎生涯学習スポーツ課生涯学習係☎042・495・7001

### 表彰式・講評

入賞者の表彰式及び入賞作品の講評を行います。

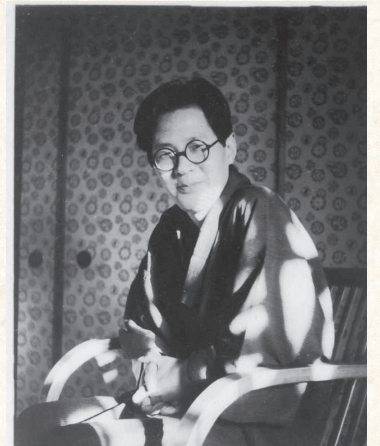
- ◆ジュニアの部(小学生の部・中学生の部)  
10月28日(日)午前10時～正午
- ◆一般の部(石田波郷賞・石田波郷新人賞)  
10月28日(日)午後2時～4時(予定)
- ◆場所 いずれも清瀬けやきホール

### 岸本尚毅氏講演会

#### 「波郷門の人々」

石田波郷新人賞選考委員であり「天為」「秀」同人の岸本尚毅氏による講演会です。

- ◆10月28日(日)午後1時～1時50分(予定)
- ◆場所 清瀬けやきホール
- ◆1・2面のインタビューもご覧ください



石田波郷記念館蔵

### 特別展

- ◆10月23日(火)～28日(日)  
午前10時～午後5時
- ◆場所 生涯学習センター

上記いずれも無料、直接会場へお越しください。

### Special Interview

## 岸本尚毅(石田波郷俳句大会新人賞選考委員)



岸本尚毅(きしもと・なおき)  
昭和36年1月5日、岡山県生まれ。中学時代、芥川龍之介の作品「木がらしゃ目刺にのこる海のいろ」に出会い、俳句を始める。昭和54年、赤尾龍子に師事し、赤尾の逝去後は波多野爽波に師事する。高浜虚子についても深く研究し、『高浜虚子 俳句の力』(三省堂)、『高浜虚子の百句 作句のこころを読み解く。』(ふらんす堂)なども執筆。近著に夏井いつき氏との共著『型』で学ぶはじめての俳句ドリル(祥伝社)がある。平成21年の第1回石田波郷俳句大会より新人賞の選考委員を務め、第10回大会で委員を勇退。

### 波郷俳句大会と新人賞には、今後も“全国区”の存在であってほしい

石田波郷俳句大会新人賞の選考委員を第1回目から務めてきた岸本尚毅氏。第10回をもって選考委員を勇退することになった岸本氏に、俳句大会への思いや波郷について、お話を伺いました。  
取材協力：石田波郷俳句大会実行委員 大山恭子氏・谷村鯛夢氏

#### 生々しい現実を格調高く

◆岸本先生が石田波郷とその作品に出会ったのはいつでしょうか？ また、石田波郷作品について、どういう部分に惹かれますか？

教科書に載っていた「雀らも海かけて飛べ吹流し」です。「吹流し」というのは、こいのぼりの一番上につけられているもので、5月の節句のころの句ですね。そして、「海かけて飛べ」という命令形の響きがいいですよ。それに「石田波郷」とい

う字面が美しい。それで石田波郷という俳人を覚えました。

山本健吉の『現代俳句』と、中央公論社の『日本の詩歌』というシリーズのなかに波郷の一章があり、今も愛読している「風の日や風吹きさぶ秋刀魚の値」「六月の女すわれ荒筵」「雁の束の間に蕎麦刈られけり」「胸の手や暁方は夏過ぎにけり」などの波郷の句がありました。なかでも「風の日や風吹きさぶ秋刀魚の値」が好きです。当時はまだ戦後の貧しい時代だと思いますが、そのなかで秋刀魚の値段が上がってしまって「とほほ～」というようなね(笑)。句の内容は卑俗であるけど、句形は美しく格調高いんです。生々しい現実を格調高く詠うことにおいて波郷は特に秀でていたんです。

波郷の素晴らしい点には「療養俳句」もあります。結核を患い、療養

を俳句にするジャンルを確立させたのですが、病というつらい現実から目を背けないで、発句の格調高さを詠み上げたことは、「人間の尊厳」だと思うんです。自分のせいではない病のために自己実現が阻まれてしまった境遇だけれど、俳句が持っている美しさ、格調を手に入れることによって、もしかしたら一部分でも人間の尊厳が取り戻せるんじゃないか。そういうことを波郷は実践したんです。だから波郷の俳句によって勇気付けられた人もたくさんいて、俳句は役に立っていたんです。俳句なんてなんの役にも立たないものだと言われるし(笑)、ある意味それがカッコいいところでもあると思います。療養している人々にとっては波郷と波郷が作った俳句は役に立っていたんです。

2面に続く